

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

病虫害防除技術情報（第 6 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、今後の発生に注意方よろしくをお願いします。

1. 情報の内容 トマト萎黄病の発生

2. 病原菌 *Candidatus Phytoplasma asteris*

3. 発生経過

令和 2 年 10 月に伊予市の促成栽培のミニトマトにおいて、萎黄叢生症状を示す株が認められた。ウイルス及びファイトプラズマによるものと推定されたため、神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、令和 3 年 1 月、*Candidatus Phytoplasma asteris* の感染が確認され、トマト萎黄病と同定された。ファイトプラズマによる県内での発生事例は、リンドウてんぐ巢病、レタス萎黄病、アネモネてんぐ巢病を確認しているが、トマトでの発生は県内で初確認である。

なお、診断サンプル採取時の施設内での発生は 1 株のみであり、その後圃場内での新たな発生は認められていない。

4. 病原菌と発生生態

- (1) ファイトプラズマは師管組織に局在し、葉の黄化や萎縮、叢生症状を引き起こす。
- (2) 本ファイトプラズマはヒメフタテンヨコバイによって媒介される。
- (3) 宿主植物として、ナデシコ、レタス、タマネギ、ネギ、ホウレンソウ、ナス、トマト、ニンジンなど 13 種 32 科に発病したとの報告がある。

5. 防除対策

- (1) 発病株の早期発見に努め、感染が疑わしい株は直ちに処分する。
- (2) ヨコバイ類の発生は少ないため、本虫に対する新たな防除対応は必要ないと考えられる。

6. 参考資料

木曾皓・野村良邦（1980）九州地域で発生したトマト萎黄病．九州病虫害研究会報 26：32-42







写真 1 新葉の叢生症状



写真 2 脇芽の黄化症状

(参考) トマトに発生するウイルスによる類似症状

<p>黄化葉巻病 (TYLCV) 平成 16 年 11 月 発生確認</p>  <p>(媒介虫) タバココナジラミ</p>	<p>黄化萎縮病 (TbLCJV) 平成 16 年 9 月 発生確認</p>  <p>(媒介虫) タバココナジラミ</p>
<p>モザイク病 (CMV)</p>  <p>(媒介虫) アブラムシ類</p>	<p>黄化病 (ToCV) 県内未発生 (写真: 香川県病害虫防除所より提供)</p>  <p>(媒介虫) タバココナジラミ、オンシツコナジラミ</p>